

ぐーてん子ども食堂

コース
自主
事業

ズット
NPO法人ZUTTO

事業の概要

一人で夕食を食べて、夜を過ごす子どもや、貧困のため十分な食事が取れない子ども、家庭や学校に居場所がない子どもやその保護者を対象に子ども食堂を開催。地域と関連機関が協力して子どもを見守る関係を築きます。

■ 交付決定額 178,000 円
(事業予算 554,760 円)



◎活動の様子（平成 28 年度）



多くの人でにぎわう受付

12月17日（土）、ローズ文化ホール（野田町）にて映画会と講演会を開催しました。来場者は300人を超え、ホールがほぼ満席になるほどの大盛況となりました。

上映映画「さとにきたらええやん」は、大阪市西成区のあいりん地区（通称・釜ヶ崎）にある「こどもの里」を舞台としたドキュメンタリー映画。「こどもの里」は、36年前に開設され、20歳までの子どもとその保護者の居場所として無料で開放されています。



会場はほぼ満席でした

映画に登場するのは、学校帰りに立ち寄りや一時的に宿泊したり親元を離れている子どもたち。彼らや彼らと関わる大人たちが直面する様々なできごとに向き合う日常が描かれています。

「100分の上映時間が短く感じるくらい、子どもたちの生き様と純粋さが画面いっぱい伝わってきました」「『こどもの里』のような課題に関心ある人がたくさんいることに驚きました。社会全体が子どもを取り巻く状況を注目していることを実感しました」と来場者は話します。



こどもの里理事長 荘保共子さん

上映後の講演会では、「こどもの里」の理事長である荘保共子さんが、映画では知り得なかった「こどもの里」のことや子どもたち、周りの大人たち、スタッフのこと、また、映画に出てきた子どものその後の様子について話しました。

「ぐーてん子ども食堂」(庄内西町) スタッフの和田美穂さんは「講演の中で子どもの権利を守ることの重要性が語られ、“制度に子どもの命を持つてくるのではなく、子どもの命に制度を持つてこなければいけない”という言葉が心に刺さりました。今回、来場者の多さに驚くとともに、こんなにもたくさんの方が子どもを支えることに関心を持っていることを知り、子どもの居場所づくりを行う者として心強く思いました。今後は子ども食堂や子どものための活動をする人々と一緒に、よりよい子ども支援について、さらに学んでいけたらと思っています」と話します。

◎今後の予定（平成 28 年度） ぐーてん子ども食堂（月 2 回）

◎リンク ▼NPO 法人 ZUTTO ホームページ